

蠅螂の斧

第二部

トークライブ2001

第六回

団 士郎

仕事場D・A・N/立命館大学大学院

今回は前の連載のつづきです。「続・家族理解入門 2」を期待しておられた方、ごめんなさい。大方まとめた原稿があるのですが、フィニッシュの気分になれない。そして新たな根本的なコンセプトを思いついたりしたので、いったん置くことに。

そして何より、前のこの形式が書きたくなかったので、今回はこちらです。こういう自在性も対人援助学マガジン連載の魅力です。もっとも、書き手の身勝手が過ぎるという弱点もあるかもしれません。ご容赦を。

2001年8月(14年前)

08/01 空調工事屋が二度目の来訪。すぐ分からないなどと言う。そして、よく調べて試行錯誤してみたら修理できたという。なぜ専門家がこういう仕事しかしないのか…と思う。

「月刊仕事場D・A・N通信」(トークライブ会場配布)の日誌を校正。K崎くんの本、4冊目の表紙デザインのゲラが届く。現職公務員で単著が4冊出てるんだから凄いことだ。

●忘れてる人も多いかも知れないが、14年前、PCはあったし、HPやブログも存在したが、ツイッターは多分存在しなかった。(調べてみたら、2006年7月スタート)だが私は、この時点で恐ろしく面倒な紙版のツイッターをやっていた。毎月それを印刷して配布していた。もう今となってはそんな手間はとてどもとてども。年賀状でさえストップしてしまった。

今や全国を、私以上に細かく走り回っている川崎

二三彦君は、この時、まだ京都府宇治児童相談所の職員だった。それでいて明石書店から4冊目の本が出ていたのだ。

08/03 一日仕事場にいていい日はゆったりする。ポータブルDVDの修理が出来上がったと連絡があったので寺町の電気店に取りにゆき、「火垂るの墓」、「グッドバイガール」、「理由なき反抗」と、意味不明なラインナップのDVD三本を購入。マンションの天井やりなおし工事も終了。クーラーも治ったし、機嫌よく金剛出版の原稿の校正作業をする。紀伊國屋書店出版部の原稿の件、一応白紙に戻すこと、担当Mさんとのメールで了承。「発達」原稿のあれこれも校正段階に。

●当時、京都・寺町四条は家電街として誰にも認知されていた。とりあえずあそこに行って、複数店を見て…そう思ってた出かけていた。今、見る影もない。撤退した店、大型店は京都駅前にと様変わりしてしまった。私の頭の中からだけ消えない幻の家電街。

出版を打診されて、今まであちこちに書いていた原稿に、書き加えを入れた「私の見た心理臨床業界周辺の事情」(そういうタイトルではないが、そう言うつものもの)の本。出版社営業サイドから、読者ターゲットが見えない、書店のどこに並ぶ本なのか曖昧というような理由で駄目になったと、編集者から連絡あり。向こうから声をかけてきておいて・・・とも思ったが、まあそんなこともあるのはここに限らないので撤収。

08/04 教員のための家族理解ws最終回。いいグループになって最終コーナーを迎えている。Sさん提出の事例、まったく家族の体をなさないまま、非常事態につこんでいる。子供は大変である。

この事例検討のH樫君の進め方が、なかなか面白かった。時間経過をファクターに入れて、2時間かけてやったもの。

●学校関係者が直面することになる問題に、深く家族が関わっているのに議論の余地はなかった。しかしあの頃もまだ、学校としては家庭に入り込むことは出来ないという言い方のままだった。

しかし昨今、SSWが登場して、その人達がどれほど機能できるかどうかの検証はぬるいまま、突然の手のひら返りで学校も家族のことを言い始めている。家庭訪問の手間も省いてしまったところが少ない今になってである。

現場の必然に合わせて、自らが機能を拡充、変化させていかなければ、流行モノ、廃りモノを次々に予算の名で押しつけられて、消費するだけの学校にしかならないのに。そして、自分たちの実力はドンドン劣化していくのだが・・・。

私は家族療法の訓練を継続する中で、教員に家族のことをもっと理解して、扱えるようになって貰う必要を痛感していた。そこでKISWECで教員対象の家族理解WSを集中開催し始めていた。

参加してくれた人たちには成果も大きかったと思うが、継続的に参加者が溢れることにはならず、数年で不開催になった。何故そんなことが分からないのだ！と憤慨気分の頃もあったが、今では、世の中

とはそう言うものだから、出来ることからするしかない。時期が来れば解ることもあるよと思っている。つまり老化である。

08/05 日曜日だが、Sさんの面接日が取れなかったので朝やることに。KISWECへH樫、S掛、C葉、Y本の4人がギャラリー。昼食歓談後、仕事場 D・A・N に。夜、自宅に届いた「人間関係論」のレポート899通(1000人を超える受講登録で、最終レポートの提出がこれだけだ)の採点を夜中に始める。面白いものが減ってきている気もするが、それでも読もうという気はする。

08/06 移動途上にレポートを読み続ける日々が始まった。20日までに成績を欲しいとか言っている。次年度の授業は600人以下の清心館でおこなえるようコントロールすべきであると書いた答案あり。

08/07 昼前に仕事場 D・A・N に。今朝も4時頃まで採点をしていた。読んでも読んでもいっぱいある。仕事場 D・A・N 通信八月号を完成させて折って切る。夕方からKISWEC今年度訓練受講生達との会食に、仏光寺柳馬場のレストランESSENへ。

●文学部「人間関係論」のレポートが送られてくると、長い読み歩き生活が始まる。ありきたりな記述も多いが時々、はっとするような文章や状況記述と出会う。するとそれが、「漫画・木陰の物語」のインスピレーションになる。そのまま描くことはないが、記憶の中の何か引き出されるきっかけになる。

08/08 Y市教員の夏期wsで勤労者福祉センターに。昨夜までH田さんから連絡がなく、やきもきしたが32人の受講である。M園小学校の教員は基本的に全員参加。月例開催の家族勉強会とドッキングしている。

午前中は父親を思い出して語るエクササイズ。午後は「決定」をキーワードの家族面接と事例検討。三つ目の事例検討は、時間の関係で中途半端になってしまった。やめる決断もあったとは思うのだが。

琵琶湖花火大会の混雑を避けたくて、急いで帰宅。自宅ベランダから目前の花火を見上げるのは

いつまでだろう。その内また、山側の本宅(本宮)で花火を見る日がくるだろう。

キネ旬広告で8月10日「初恋のきた道」DVD発売を知る。待望の・・・である。

この時点ではまだ、暫定別宅生活を夫婦と娘でしていた。本宅には両親と私の次男(孫)が暮らしていた。もう二人とも亡くなったが、この時点ではまだ両親が存命だったのだ。今では次男も二人の子の父親になっている。十四年も経つと、何もかもが変わってしまうのだなあ。果たして自分自身の成長変化はいかがなものだろう。

08/09 時間を見つけてはこつこつとレポートの採点をしている。面白いものがときどきあるが、つまらないものや舐めているものも多い。自分の学生時代をふりかえれば、もっともなのだが。巨大教室(1000名収容)の変更がムードをかえてしまったと感じている学生が多いのに改めて驚く。

夏の旅、イスタンブール旅行の払込みをしてHISに電話をいれると、トルコ航空(直航便)で席が確保できたとのこと。何かと都合のいい段取りである。

夕刻、園部駅に向かう。瑞穂町職員向けの講演で、出迎えが園部駅まで。JRの走っていないところは私には不便なところ。講演の出来は、笑いの少ないものとなったため、受け手の感触は不明。住民課長は嵯峨野高校でも聞いているので、あの時との違いに驚いたかも。

帰路の車中、N・サイモン著「第二章」読了。面白く読んだが、第一巻の方が良かった。

イスタンブールに格別な思いがあるわけではない。巡り合わせ、偶然である。そしてそれが必然になる気がすることもしばしばある。遭遇とはそういうものだろうし、私達はまだ見ぬ何かは知らない。そして知らないものを欲望することは出来ない。

08/10 「DVD・初恋のきた道」購入。そのうちゆっくり見よう。

午後は家裁の調停三回目。申立人が来ないとい

う展開。相手方の母親にも来てもらったが、見事に話し合いにならない。同じ日本語世界の人とも思えない。代名詞ばかりの、独り言老人。イライラする。娘も来ていたが、彼女の立場のなさにも同情してしまう。もっと普通の親や祖父母が欲しかったろう。



仕事場D・A・N通信 第5号

トーク2001の5回目が終了。いつものように50人ほどの出席は有り難いこと。しかし、話の出来は今ひとつではないかという反省しきり。というのも、今回第二部に用意していた話にゆかりのある人が突然出席してきたのである。驚いてしまって、やや混乱。終了後、K崎、K嶋と三人でお茶を。

帰宅途上にレンタルビデオ。「処刑人」変な映画。「ダーク・エンジェル第二巻・ハンナ」ちょっと、面白くなってきた。でも、やっぱり続き物のシリーズの匂い。採点は半分済んだような気配である。思っていたより快調なペースで進んでいる。

トークライブに50人もの有料入場者があったこ

最近、そろそろ大学の定年退職も視野に入れて、仕事場D・A・Nの撤収も考え始めている。そして、この期に及んで、ずっと自宅がベースになる事への心配が頭をもたげている。

08/12 半日かかって仕事場の掃除。なかなか片付かない。わかっているのに、なぜこんなになってしまうのか。日曜夜、K-1を見ながら飽きていることに気付く。BS放送のイチロー特集。わくわくする。シアトルのアメリカ人のイチロー談義が面白い。これって小泉人気と同じメカニズムだけだ。

身勝手な話だが、やがてイチローにも飽和してしまった。説教臭く感じ始めたので、情報に触れる機会が減った。振り返ってみると、サッカーの中田ヒデに注目し、香川に移り、MLBのダルビッシュに目を奪われ、ヤンキースのマー君に心惹かれ、今は錦織圭って、ただのスポーツミーハーだな。

08/13 月曜日、昨日手をつけた片付けがまだ納まらない。それよりショックなことは、「カイよりはじめよ」の言葉を、まったく勘違いして覚えていたこと。それを文章に書いてしまったことだ。しょうがないか。

「木陰の物語」を紀伊国屋書店から本にできないかどうか、打診のスクラップを送る。一度失敗しているMさんが今度は頑張ってくれるかな？それだけで一日すんでしまう。

夕刻K崎くん、遅れてH谷さん来訪。LAMASAで食事しながら話す。H谷さんの園部での生活は愚痴ばかり。大変だなと思う。今、組織の団塊世代は本当に行き詰まり、閉塞であるようだ。

夜中、ビデオ「ぼくたちのアナ・バナナ」エドワード・ノートンを観る。そこそこ面白かった。

この時点ではまだ、「木陰の物語」が出版物になる計画は成立していない。結果的にホンブロックから、「家族の練習問題」1-6 巻として現在に至ることになる。でもまだ、そんな未来があることを誰も知らない。未来はいつもそうである。

08/14 小泉首相は昨日靖国参拝に。そういうアイデアがあったのか。レポートの採点が大詰にきている。今日の一通、「虐待の世代間連鎖のようなことを言い過ぎると、片親や家族的マイナス原因を興信所が調べたような風潮が、また繰り返すのではないのかという懸念がある」このセンスにはとどまる。

08/15 嫌な事件が起きている。連れ子再婚夫婦の小学生の子どもを、虐待死させてしまっている。施設にも入っていた子だ。一時帰省の間のこと。死体遺棄までしている。全く嫌になる。人間に期待を繋ぐのが虚しい気にさせられるような出来事だ。

この二日間の記述は、何かを考える上での「ありたい姿」と「ある姿」の扱いについて、考えさせられる。慣用句に登場する、親が変わってしまったというのは本当なのか。子どもが昔とは違うというのは本当なのか。生物がそんなに短期に、決定的変化を遂げたりするものなのか？変わりやすいのは人ではなく、状況の方だろう。

08/16 朝の相談室は受け付けのAさんがアメリカの妹宅訪問でお休み。面接予約も入れてなかったのでソファで居眠り。

午後は家裁のやっかいな一件。時間がかかって、2時から始まったものが、終了は5時45分。気むずかしい虐待親父に、ここというところで、リアリズムを突き付けて話す。すると、私は理解してくれてる人だといいたす。28条の調査については、一緒に居てくれるのかと聞いたりする。人は自分の都合のよいようにではあっても、理解されたいものなのだ。この時間になると空調は切れてしまって暑くて仕方ない。なんという役所だ。

終了後、久しぶりに本宮へ。母が、「もうこの家はあんたも必要ないやろ」等という。何を云われても、笑っている私である。7シネマに出かけて「RED S HADOW 赤影」を観る。心底つまらない。映像的面白さだけの映画。忍者映画の面白さを作り出せていない。

これを読むまで、母がこんなことを言ったことを

覚えていなかった。この経過には、いったん同居しておきながら、大津市内のマンションに別居していた私達への不満や批判がある。当初の話し合いでは、親父よりも物わかりの良いことを言っていた母だが、腹の中では無念だったのだろう。しかしこの後、父が亡くなり、一人暮らしになった母の所に戻って再同居するようになって、想いの変化もあっただろうと思う。人は単純じゃないし、その時だけではない。

人はどの時点かに時間を止めて、それに自分の人生を代表させてしまう事がある。事実目を見れば、けれど生きている・・・だし、その後にも様々なことが起きるのが必然だ。生き物は自分の知らないある日の死に向かって、それでも日々を過ごすものだ。解釈と説明で人生を操作しようとする人の落とし穴を見る気がする。それもこれも、今も、私の人生である。

08/17 昼前に仕事場に来た。人間関係論のレポートの採点が完了。よく読んだものだと思うが、残り僅かになると、もうあと少しか・・・と残念に思ったりする心情がおかしい。25日のイスタンブール行きまでに仕上げておきたいことを書き出して片づける。

立命レポートの成績記入と発送、季刊「発達」の原稿、「児童心理」のイラストと原稿、晩年学フォーラム通信のマンガと文章、できれば「木陰の物語」9月分、とこんなところなのだがサテサテ。夕刻、N本さんが面談に来る。

今も忙しいような気がするが、当時の多忙さに比べると、年齢相応の抑制もきいてきている気がする。それに、この当時頑張っておいたことの成果が今に結びついている感じはあちこちにある。やはり出来るときには、やっておくのが一番なのだろう。

更に説教臭いことを加えるなら、今だけをしのぐような仕事は抑えて、未来の種蒔きに鳴ってくれそうなことを、忙しくてもしておくことだ。

08/19 月例ミーティングの日。F川、C葉、M、N本、小Z、H田の六人が来談。

月に一度、日曜日の午後から有志が集まって業界内外、周辺諸々の雑談会を仕事場DANで開催していた。食べ物持ち寄りの、日がな一日の歓談会だった。

仕事場を京都市内の便利なところに設けた目的の一つがこれだったので、長いこと月例会で開催していた。参加が10人近くと多いときも、3、4人の時もあったが楽しかった。毎日出勤する職場がなくなったので、新たな同僚づくりを志していたのかな。

08/20 一日かけて木陰の物語・金剛出版用バージョン第一話「故郷」の絵の部分を完成。BGMは朗読・永井荷風著「墨東奇譚」。

夜、遊が泊まりに来ている。「団遊通信」のおかげで、やっていることがよく見えている。大和証券に務めている次男いどむの事が気がかりだ。こと葉は明日、台風の中を彼氏の車で東京から戻って来るという。

この頃はまだ、自分の中に親の気分が強かったのだなあ。上二人は成人して、それぞれ仕事をしていたのにである。今だって、子どもは子どもだが、それぞれに対して安心感は絶大だ。有り難く育ってくれた。

08/21 台風である。琵琶湖からマンションにふく風は驚くほど。朝、大津市の保護司会・K川さんから講演依頼あるも、火曜日で女子大の授業日ゆえ断る。〇市自治労の保育部会の研修会、助言者依頼ある。日程は都合つかなくないが、講演料定価を伝えて返事待ち。網野町から講演依頼。夜間であるが、日程が比較的自由に相談の余地あり。規定の謝金を用意しているので引き受けることになりそう。

50歳でフリーになってから、お金のことをきちんと請求して、扱えるようにと努力してきた。公務員だったから一番弱い面だからだ。そして様々な状況の中、自分の定価を確保して時間が経った。

昨今、あまり拘らずに、行けるところには行って

あげようと思った途端、講師謝金が 15 年前に戻ってしまったところがある。人にもものを頼むのに、謝礼のことを口にしない世話人はずるい人か弱い人だ。自分に都合のいい熱心さばかり強調するのは怪しい。

08/22 近畿はまるまる暴風圏にはいって雨風。そして関東に抜けていった。仕事場で一日作業。児童心理校了、発送。「発送」FAX送信。締め切り分は一応片付く。やっと本物の空調屋が来てくれたようで、クーラーの水漏れ工事、三度目の正直期待。

08/23 昨日から読んでいる、「蜷川幸雄伝」が面白い。朝は相談室。先日会った人が偽名で来ていたらしいことが判明。本名で改めて別の日に予約が入っている。しかも、前回来たときのことを受け付けに伝えている。よくわからない人だ。

MさんのN市勉強会、9月も中止。12月からというが、その日程でトラブル。上手くいくところは自然にそうなるし、駄目なところはどうあがいても裏目にでる。そういうものなのだろう。

他人任せで気楽に、何もかもが上手くいっていたわけではない。むしろ、順調なもの以外は皆、壁や落とし穴に出会っていたと考えてもらった方が、事実に近い。

それでもへこたれないのは、上手くいったその一つが元気をくれていたからだ。やりたくもないことが上手く行っても、フィードバックは少ない。そして上手く行かなかつたら、本当に滅入る。

だから結果が出た時の気分は、上手くいったかいかないかで決まっていたのではなく、やりたいことだったかどうかで決まっていたのだ。

やりたくもないことを、仕事だからと我慢して、あげくにダウンしている人は考え直した方がいいよ。

* * * *

そして翌日からイスタンブールに出かけた。その旅の記録は以前に掲載したことがある。

